

●連休中に大奮闘有田さん播川さん

木津川希少種生育調査管理業務のうち春に除草する分4,800平方メートルのうち5月5日と6日の二日間で4,300平方メートルを刈り取っていただきました。5日は午前9時に事務所に集合、草内倉庫に移動、倉庫でハンマモアの試運転に手こずりながら、予定地に移動。機械ものは最初の動き出しが順調ならば気持ちよく作業できるものですが、この日は、かなり苦勞しました。それでも除草地では片道100mを20回は往復を繰り返すものですから相当時間がかかりました。秋の除草では背が高くなっていて、その上、茎が太くなっているものですからエンジンに負荷がかかり過ぎてスピードが落ち時間がかかります。春の除草作業はまだそこまで高くはなく太くなっていないので、刈取り作業は比較的軽く進行します。マキエハギの生育地の傾きは除草予定地の中では、きつくハンマモアの許容範囲を度々超えるので、燃料タンクからの補給が滞りストップすることがしばしば発生します。燃料タンクも傾斜するのでエンストが予告なく発生します。その都度、満タンにして作業を継続することになります。燃料の補給は完全に水平に機械を戻して行うことになりますので、手間と時間がかかります。平地で作業する時とは雲泥の違いで時間や安全確保に気を遣うことになります。

夕方3時には予定していた範囲の除草作業が終了しました。二日目の6日は翌日が降雨という天気予報でした。この日も9時には事務所に集合して草内倉庫から現地に移動でしたエンジン係は昨日よりも手際よく始動しました。除草の予定地は昨年の秋に一度草刈りを行って行っていますので、地形が少しわかったので、エンジントラブルなどは殆どなく、燃料の補給も早めに行い、随分とスムーズに運行ができました。これで春の除草予定地の80%が刈り取れました。

●レンリソウの生育保護のために雑草の抜草作業

5月3日に実施しました。この日はグループレンジャーの小林君と光田先生そして播川さん達が参加しました。この場所は今年3月3日に全面的に除草を行って、手入れを確実に実施した場所で、里山の会が一番注意している管理場所です。ところが今年は異常気象で気温が高くて、これまでより2~3週間も早く開花が進み、5月3日にはほとんどの茎に花が咲き揃っていました。昨年まではカラシナとかアカツメクサが大繁茂して除去しました。今年の異常な気温の変化の影響か、予想していたアカツメクサはほとんど見られなくもちろんカラシナもなく、セイバンモロコシが稲穂のように一面覆いつくしていました。60センチ以上に成長していました。参加した4人が約1時間レンリソウの周囲を注意深く丁寧に手刈りしました。それでも予定地のうちレンリソウが生育している場所の五分の一で、集中して抜草をおこないました。できていないところはセイバンモロコシの影響がどう表れるか注目することにしました。しかしセイバンモロコシの異常は密集する中でもレンリソウはしっかり開花するものが数株発見されました。太陽の光が弱くなっているにもかかわらず頑張っていました。

●会誌44号「里山の自然」

5月9日に発送の運びとなりました。原稿の締め切りを3月20日として編集に取り掛かりましたが、年度末に集中する報告書作成の作業量が例年以上に多くて手が回らず会誌編集が後回しになりました。例年総会前の発行(4月下旬)を予定していました。44号は2週間遅れてしまいました。ご期待されている皆様には申し訳ありませんでした。編集の追い込み作業が連休になり、5月7日に印刷原稿が完成しました。その日一日中印刷機を回し、8日には表紙の印刷とホッチキスで製本化し、背表紙を貼り付けで完成となりました。8日にはベテランの森島さんが来てくれて、製本化のピッチが上がりました。また背表紙付けには青代さんが頑張っていたが、140冊の製本が完成しました。9日の事務局会議に集まってきてくれた11人が背表紙の貼り付けを手伝ってくれて見事に完成しました。午後からは深田さんが準備しておいてくれた郵送袋に仕分けをしながら必要プリントを入れて発送準備が完成しました。この仕事も相当複雑で、昨年度会費未納者への催促状や今年の会費納入依頼書、そして顧問さんや特別代表者などに分類しながらの作業になります。

そして分配する方法に仕分けを行います。持ち帰れる人、届けられる人、受け取りに来てくれる人、郵便で郵送しなければならない人、宅配便で可能な人と送り方や届け方など様々に仕分けをしなければならないのです。それはいずれも少しでも郵送料の軽減を図り工夫に工夫を重ねて経費の節約に苦勞しているのです。会誌発送にかかる経費は一冊につき 650 円程度になります。送料分 100 円の節約のために皆さんのご協力をいただいています。里山の会の定款で、会誌発行が義務付けられています。一人一人の会員さんに年間の活動が、できるだけ正確に伝えられるようにとした規定となっています。透明性を高く、正確にお伝えし、会員相互の理解が深められる装置として、取り組んでいます。お届けできた 44 号について、評価がいただければありがたいです。事務局会議出席者のご奮闘ご苦勞様でした。多忙な中、会誌原稿を毎度のように提供頂き誠にありがとうございました。次号は 45 号となります。すべての会員の皆様こそって原稿をお届けください。ご寄稿をお願いいたします。

●個別専門会議の取り組み

先に実施した第 24 回通常総会で運営方法について、できる所から意見を持ち寄っていただく取組みが決定されました。その第一歩として、すべての会員さんをイベント班やサークル班或いは何かの会議に所属いただきます。連絡を密にして「自然を大切に作る仲間の輪を大きくする」のスローガンを実現するために力をお寄せいただくこと、そしてお互いの絆を深め合い、前進発展をしようと取組みを行います。各位におかれましては、皆様の意向とは違った所属の提案となるかもしれませんが、所属先はご希望に沿って大いに変更を行います。ご意見をお寄せください。なおその集りの世話人さんに連絡いただき、ご意見、ご希望をお伝えください。これまでは会誌送付が唯一の連絡になっておりましたが、世話役も会員さんも力を合わせて「自然を大切に作る仲間の輪を大きくする」取組みのご参加をお願いいたします。

●カスミサンショウウオ順調に成長

金田さん報告 アカハライモリが発見されて心配しましたが、幼生が生まれ出て大丈夫かと心配しましたが、調査した結果大きくなっていました。網ですくってみますと 20 匹は確認できました。10 年前の観察では 5 月 1 日以降、姿が見えなくなりましたが、今回の場所では 5 月 8 日では、エラと手足が小さいのが確認できました。これから餌が豊富になって成長のスピードがつくのではないのでしょうか。数多く成体に成長して、絶滅の恐れのある生き物の指定が外されるよう期待するものです。オオムラサキとカスミサンショウウオの貴重な生き物が生育できる自然環境がしっかり残されてほしいと願っています。

生物多様性保全の三つの危機があります

第一の危機……人間の活動や開発が、種の減少・絶滅、生態系の破壊・分断を引き起こしていることです。捕獲・採取による個体数の減少、森林の開発、埋め立てによる海の破壊、汚濁した排水による生態系の破壊などがあります。

第二の危機……自然に対する人間の働きかけが減っていくことによる影響です・田園地帯の里山やススキが生い茂る草原は、薪炭材、肥料としての落葉、家畜飼料、屋根ふきの材料などを得る場所として、多くの利用価値を持っていました。しかし、石油や新建材、化学肥料の登場によって、このような利用の必要がなくなり、里山や草原は管理されないまま放置されることになっています。

第 3 の危機……移入種や化学物質による影響です。マングース、アライグマ、ブラックバス、化学物質・PCB、DDT、ダイオキシンなどがあります。